

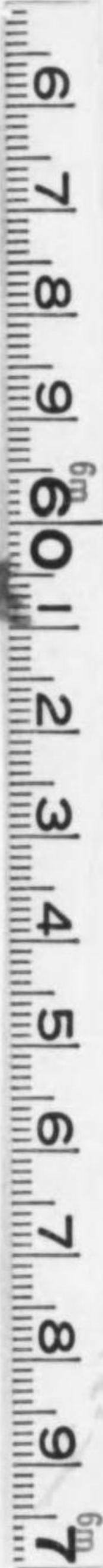
特261

349

694

728

勅語寫  
御沙汰寫  
令旨寫



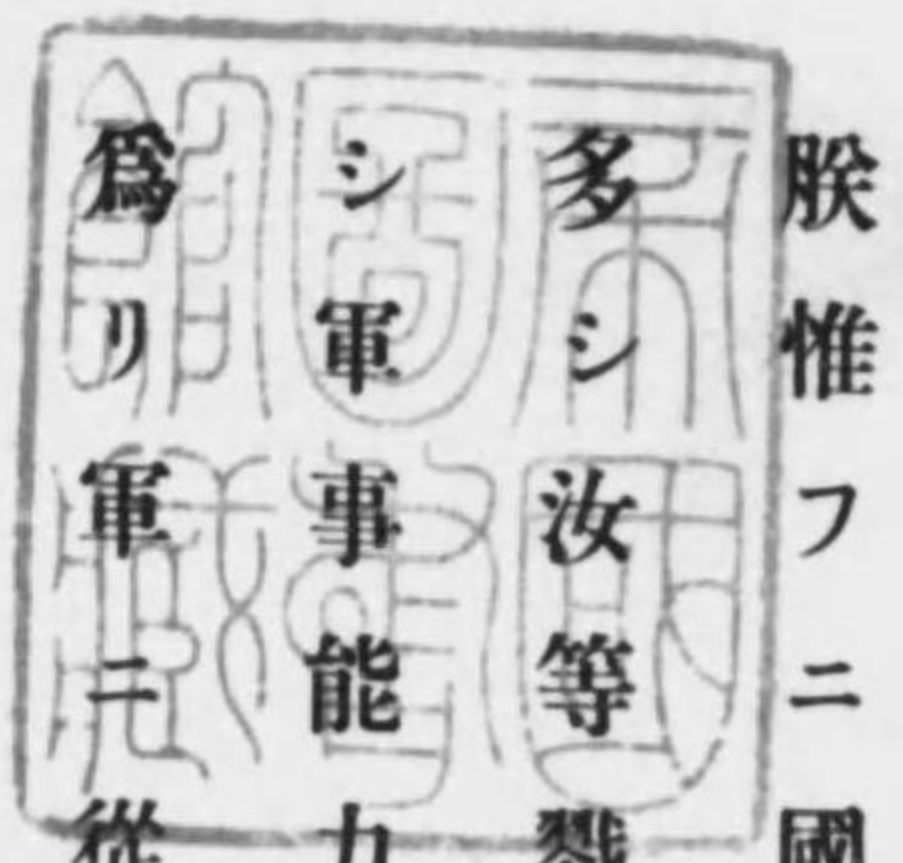
始



特261  
694



勅語



朕惟フニ國防ノ完備ハ汝在郷軍人ニ待ツモノ洵ニ  
多シ汝等戮力協心陸海一致シテ益々軍人精神ヲ鍛鍊  
シ軍事能力ヲ増進シ郷ニ在リテハ忠良ナル臣民ト  
爲リ軍ニ從ヒテハ國家ノ干城ト爲リ以テ其ノ本分  
ヲ盡サムコトヲ期セヨ

大正三年十一月三日



勅語

朕親シク帝國在郷軍人會會員ヲ閱シ其ノ健在ヲ憐  
フ汝等益奮勵克ク其ノ本分ヲ盡シ以テ朕カ倚信ニ  
副ハンコトヲ期セヨ

大正四年十二月二日

勅語

朕親シク帝國在郷軍人會會員ヲ閱シ其ノ勇健ヲ憚  
フ汝等克ク先朝ノ聖諭ヲ體シ深ク時勢ノ推移ニ鑑  
ミ益其ノ本分ヲ盡シ同心協力以テ朕カ信倚ニ副ハ  
ムコトヲ期セヨ

昭和三年十二月三日

御沙汰

帝國在郷軍人會ノ穩健ナル發達ヲ懌フ汝等益々勤勞セヨ

大正七年五月四日  
帝國在鄉軍人會聯合分會長  
會議參列者立奉拜ノ際ニ  
於ケル

### 御沙汰

帝國在鄉軍人會ノ發達ヲ懌フ  
汝等深ク時勢ノ推移ニ鑑ミ益々奮勵シ其本分ヲ完  
ウセヨ

昭和九年三月二十四日  
全國代表者大會參列者  
列立奉拜ノ際賜ハリタル

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

帝國在郷軍人會組織成リ茲ニ  
天長ノ佳節ヲトシテ本部ノ發會式ヲ舉ク惟フニ在  
郷軍人ハ國民ノ精華ニシテ軍ノ編成之ニ賴ルモノ  
頗ル重大ナリ是ニ於テカ統一指導ノ下ニ其團體ヲ  
組織シ以テ在郷軍人ノ本分ヲ瘁勵スルノ必要極メ  
テ切ナリトス是レ即チ本會ノ組織ヲ見ルニ至レル  
所以ナリ自今各員相依リ相助ケテ益々軍人ノ精神ヲ  
發揮シ其技能ヲ修養シ以テ本會設立ノ趣旨ヲ貫徹  
センコトヲ望ム

明治四十三年十一月三日  
發會式ニ際シ

**總裁 貞愛親王殿下令旨**

帝國在郷軍人會分會ハ各支部長ノ盡力ニ依リ著々  
成立シツ、在ルヲ聞キ大ニ満足ヲ表ス今後益々奮勵  
努力シ以テ本會ノ隆盛ト鞏固トヲ期セムコトヲ望  
ム



明治四十四年二月八日  
支部長會同ノ際

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

帝國在郷軍人會ハ各支部長ノ盡力ニ依リ其成立ヲ  
告ケ今ヤ實行ノ期ニ在ルヲ聞キ大ニ満足ヲ表ス凡  
ソ事創立ハ易ク實行ハ難シ今後益々奮勵努力シ以テ  
本會ノ健實ナル發達ヲ期セムコトヲ望ム

明治四十五年二月二日  
支部長會同ノ際

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

帝國在郷軍人會支部及分會ハ成立以來日尙淺シト雖日ニ整備ノ域ニ進ミ  
ツ、アルハ是レ偏ニ各師團長ノ監督其ノ宜シキヲ得ルニ由ル今後益々本會  
ノ發展ニ盡力セラレンコトヲ希望ス

在郷軍人ハ個人トシテ國民ノ有スル權利ヲ行使シ政治ニ干與スルハ固ヨ  
リ妨ケナキモ在郷軍人會ノ勢力ヲ利用シ若ハ其ノ名ヲ籍リ以テ政爭渦中  
ニ投スルカ如キハ特ニ禁遏セサル可ラス今ヤ衆議院議員選舉ノ期將ニ近  
キニ在ラントス希クハ支部長以下ヲ訓諭シ在郷軍人會ヲシテ其ノ選舉ノ  
弊害ニ陥ルコトナキ様豫メ注意セラレンコトヲ望ム

明治四十五年三月二十二日  
各師團長會同ノ際

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

帝國在郷軍人會ノ設立以來各位ノ配慮ヲ煩ハス尠  
ナカラス當事者ノ深ク感謝スル所ナリ抑、斯會ノ趣  
旨及情況ハ別冊ニ記載セル如ク百事地方ト重大ノ  
關繫ヲ有シ各位ノ熱誠ナル協力ヲ要スルカ故ニ今  
後斯會ノ趣旨ヲ廣ク一般ニ徹底セシメ其ノ穩健ナ  
ル發達ヲ促進スル爲尙一層ノ盡力ヲ望ム

明治四十五年四月十六日  
地方長官會同ノ際

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

曩ニ先帝陛下ノ崩御アラセラルルヤ會員一同謹慎シテ哀悼ノ誠ヲ致シ國  
民ノ儀表タル實ヲ示シタルハ深ク満足スル所ナリ  
畏クモ今上陛下ハ御登極ノ初ニ於テ軍人ニ聖勅ヲ賜ヒ先帝陛下ノ聖訓ヲ  
遵奉シ大ニ奉公ノ誠ヲ效スヘキヲ諭シ給ヘリ在郷軍人タルモノ須ラク感  
激奮勵以テ聖旨ニ奉答スルノ覺悟ナカル可ラス  
今ヤ御大喪儀行ハセラルルニ際シ各員地方分會ヲ代表シ亟カニ上京シテ  
盛儀ニ參列シタルヲ多トス乃チ此ノ機會ニ於テ各員ニ一言シ更ニ一層ノ  
用意ト誠悃トヲ以テ各其ノ業ヲ勵ミ陛下ニ對シ奉リテ益々忠節ヲ竭サムコ  
トヲ望ム

大正元年九月十四日  
大喪儀參列員ニ賜ハリタル

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

帝國在郷軍人會ハ創立以來相當ノ効果ヲ收メタル  
ヲ聞キ予深ク之ヲ悦フ抑々本會ノ事業ハ國軍勢力  
ノ消長ニ關スルコト極メテ大ナリ故ニ彌々本會ノ  
基礎ヲ鞏固ニシ經營ヲ完全ニシ以テ當初ノ目的ヲ  
達セント欲セハ各支部長ノ熱誠盡力ニ待タサル可  
カラス諸子ハ能ク中央當事者ト連繫ヲ密ニシ其ノ  
指導スル所ニ從ヒ本會ヲシテ益々堅實ナル發達ヲ  
期セシメヨ

大正二年二月四日  
内地支部長一同拜謁ノ際

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

今般聯隊區司令官會同ノ機會ニ於テ茲ニ帝國在郷  
軍人會支部長トシテ相見ルコト予深ク之ヲ懌フ今  
ヤ本會ハ會長ノ報告ニ徵スレハ實力粗具ハリ漸次  
穩健ノ發達ヲ爲シツ、在リ是レ實ニ各員ノ熱誠盡  
瘁ニ依ルモノ多キニ居ラン尙望ム更ニ其施設經營  
ヲ周密ニシ會員ヲ督勵シ其行動ヲ整正ナラシメ以  
テ良兵良民ノ實ヲ舉ケ眞ニ國家ノ中堅タラシムル  
ヲ期セヨ

大正三年二月七日  
内地支部長一同拜謁ノ際

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

天皇陛下ハ陸海軍ノ在郷軍人ニ一層ノ進修ヲ望マ  
セラレ爰ニ 勅語ヲ賜ヒ特ニ本會ニ内帑 御下賜  
ノ恩命アリ 聖恩ノ優渥ナル感激ノ至リニ堪ヘス  
會員タル者深ク 聖旨ヲ奉戴シ益々軍人精神ヲ振作  
シ軍事能力ヲ増進スルハ勿論各其產ヲ治メ業ヲ勵  
ミ相競テ本會ノ發達ヲ圖リ以テ 聖旨ニ奉答セム  
コトヲ期セヨ

大正三年十一月四日  
在郷軍人ニ賜ヘル勅語拜受ノ際

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

天皇陛下允文允武夙ニ軍事ニ軫念シ給フヤ深シ今  
回畏クモ本會會員ヲ親閲アリ特ニ優渥ナル  
勅語ヲ賜フ君恩ノ洪大ナル聖旨ノ深遠ナル感  
激何ソ堪ヘン惟フニ宇内ノ進運ハ在郷軍人ノ責務  
ヲシテ倍々重大ナラシム各員精勵努力以テ國家ノ干  
城ト爲リ以テ國民ノ儀表ト爲リ其ノ本分ヲ完ウシ  
誓テ聖旨ニ答ヘ奉ランコトヲ期セヨ



大正四年十二月三日  
大會ノ際

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

帝國在郷軍人會カ各位ノ援助ニ依リ漸次發達シテ  
今日ノ進運ヲ致セルハ予ノ深ク懌フ所ナリ然レト  
モ之ヲ宇内ノ大勢ニ徴シ帝國ノ興隆ニ鑑ルトキハ  
我帝國在郷軍人會ノ前途猶甚タ遼遠ニシテ其ノ使  
命亦實ニ重大ナリ此ノ際各位一層ノ盡力ニ依リ更  
ニ斯會ノ進展ヲ促シ以テ深遠ナル 聖旨ニ副ヒ奉  
ラシコトヲ切望ス  
帝國軍人後援會ノ事業モ亦各位ノ斡旋ニ待ツモノ  
頗ル多シ各位益々斯業ノ達成ニ努力セラレンコト  
ヲ望ム

大正五年五月十一日  
地方長官會同ノ際  
帝國在郷軍人會  
帝國軍人後援會

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

爰ニ本會聯合分會長ヲ會同スルニ當リ  
陛下親シク參列者ヲ宮城ニ召サレ殊遇ヲ賜フ  
叡慮深遠感激ノ至リニ堪ヘス今ヤ宇内ノ大勢ハ一  
日ノ儉安ヲ許サス在郷軍人タル者愈々其責ノ重キヲ  
思ヒ拮据精勵本會目的ノ遂行ニ努メ誓テ 聖旨ニ  
奉答セムコトヲ期セヨ

大正七年五月四日  
聯合分會長會議ノ際

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

平和克復ノ大詔ト共ニ陸海軍人ニ優渥ナル 聖勅  
ヲ賜ヒ洵ニ感激ニ堪ヘス而シテ本會ノ責務愈々其ノ  
重キヲ加フ此ノ時ニ方リ支部長諸子ト相見ルノ機  
會ヲ得深ク之ヲ懌フ惟フニ國防ノ堅實ヲ致シ國富  
ノ増進ヲ期スルハ在郷軍人ノ教養ニ負フコト大ナ  
リ諸子其レ此ノ意ヲ體シテ奮勵努力本會有終ノ美  
ヲ濟シ以テ 聖旨ニ奉答セムコトヲ期セヨ

大正九年二月六日  
支部長會同ノ際

### 總裁 貞愛親王殿下令旨

帝國在郷軍人會員タル諸子ハ今回 皇太子殿下ヲ  
迎へ奉ラムガ爲メ炎暑ヲ冒シテ遠ク輦轂ノ下ニ來  
レリ予ガ此ニ由リテ諸子ト相見ルノ機會ヲ得タル  
ハ洵ニ中心ノ歡喜トスル所ナリ熟々近事我邦思想  
界ノ趨勢ト其ノ世界ニ於ケル地位トヲ惟フニ在郷  
軍人ノ之ニ處スル所以ノ責務ハ益々重キヲ加フ諸  
子其レ此ノ時ニ當リテ愈々思索ヲ慎ミ結束ヲ固ウ  
シ協力同心互ニ相砥礪シ以テ 聖旨ニ副ヒ奉ラム  
コトヲ期セヨ

大正十年九月三日  
皇太子殿下御歸朝奉迎ノ爲メ  
上京セル全國聯合會總代ニ  
賜ハリタル

### 攝政殿下令旨

先帝勅諭ヲ軍人ニ賜ヒシヨリ茲ニ四十年予攝政ト  
爲リテ此ノ記念日ニ遇ヒ感スル所殊ニ深シ因テ陸  
海軍人聖訓ヲ服膺シテ各々益々奮勵シ以テ我カ  
皇上ノ股肱タル本分ヲ盡サムコトヲ望ム

大正十一年一月四日

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會ノ發達ハ夙ニ世ノ矚目スル所ニシ  
テ其ノ大成ヲ待ツコト一日ノ故ニアラス且現下歐  
米各國ノ實情ト我國ノ情勢トニ考フレハ在郷軍人  
ニ要望スヘキモノ更ニ多キヲ加ヘ小康ニ甘ンスル  
ヲ容サス載仁茲ニ總裁ノ任ヲ繼承シ切ニ重責ヲ思  
ヒ日夜精勵進運ヲ開拓シテ國防ノ完備ニ資セント  
欲ス諸子深ク此ノ意ヲ體シ忠良健實以テ上 聖諭  
ニ奉對シ下國民ノ信賴ニ副ハムコトヲ望ム

大正十二年五月八日  
御就任ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

載仁新ニ帝國在郷軍人會總裁ノ重任ヲ承クルニ當  
リ茲ニ親シク諸氏ト相見ルヲ欣フ  
惟フニ本會ノ今日アルハ地方官民諸氏ノ援助頗ル  
大ニシテ深ク其勞ヲ多トス  
今ヤ我カ帝國ノ情勢ハ在郷軍人ニ期待スル所益多  
ク歐米各國モ亦國家ノ興廢ニ關係スル所尠カラサ  
ルヲ以テ銳意其發達ニ焦慮ス諸氏ハ此大勢ニ鑑ミ  
本會ノ目的ヲ達成セシメンカ爲メ自今一層援助ニ  
努力センコトヲ望ム

大正十二年五月二十七日  
地方長官會同ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

關東ノ大震災ニ際シ本會會員機宜ヲ失セス遠近相競ウテ急ニ赴キ協力一  
致警備救護ニ從事シ流言蜚語ノ制遏ニ努メ人心ノ安定秩序ノ恢復ヲ圖リ  
テ平素ノ期待ニ背カサリシハ洵ニ嘉スヘシ  
今ヤ帝都ノ復興ハ列國視聽ノ集中スル所トナリ其ノ遲速又國運ノ隆替ニ  
關ス本會會員タルモノ宜シク  
聖旨ニ感激シ剛健ノ氣風ヲ助長シ節制アリ紀律アル團結ノ力ヲ以テ恪勤  
精勵復興ノ大成ニ寄與シ國民ノ中堅タル實ヲ舉ケ以テ公共團體ノ翹楚タ  
ルヲ期セサルヘカラス諸子夫レ旃レヲ勉メヨ



大正十二年十一月二十四日  
關東大震災ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

皇太子殿下御結婚ノ大典ヲ舉ケサセラルルニ當リ  
茲ニ諸子ト相見ルヲ得テ俱ニ皇室ノ隆昌ヲ奉祝シ  
齊シク其慶ニ賴ルヲ欣フ  
今ヤ宇内ノ趨向ト我カ思想界ノ情勢トニ鑑ルトキ  
ハ國民精神ノ作興甚タ急ニシテ之カ中堅タル在郷  
軍人ノ元氣ニ須ツモノ頗ル多シ諸子常ニ國運ノ進  
暢ヲ念トシ輕佻過激ノ弊ヲ去リ質實剛健ノ德ヲ養  
ヒ一致協力以テ有終ノ美ヲ濟サムコトヲ期セヨ

大正十三年一月二十六日  
皇太子殿下御結婚奉祝ニ上京  
セル全國代表者ニ賜ハリタル

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會大會ニ臨ミ茲ニ諸子ト相見ルヲ欣  
フ  
今ヤ本會更新ノ規模已ニ成リ將ニ實績ヲ舉ケント  
スルニ當リ會員諸子ノ努力ヲ要スルコト殊ニ切ナ  
リ諸子常ニ報效ヲ念トシ内外ノ情勢ヲ審カニシ軍  
人精神ヲ發揮シテ協心戮力會是ヲ遂行シ以テ國民  
ノ中堅タランコトヲ望ム

大正十四年十月二十九日  
於大阪市全國大會

### 總裁 載仁親王殿下令旨

本日茲ニ諸子ト親シク相見ルヲ欣ブ  
帝國在郷軍人會規約改正以來諸子奮勵一致能ク本  
會更新ノ實ヲ舉ゲ朝野ノ倚信重キヲ加ヘタルハ邦  
家ノ爲メ慶賀ニ堪ヘザルナリ今ヤ時勢ノ進運ニ伴  
ヒ本會ノ事業益々多ク其ノ發展ヲ要望スルコト愈々切  
ナリ諸子克ク大局ニ鑑ミ責務ヲ重ンジ和衷審議以  
テ會是ノ遂行ニ努力セムコトヲ望ム

大正十五年二月六日  
第二回評議會ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

本日茲ニ諸子ト親シク相見ルヲ欣ブ  
帝國在郷軍人會ハ諸子ノ奮勵努力ニ依リ年ヲ逐ウ  
テ伸展シ朝野ノ信賴益々重ク國運ノ隆昌ニ資スル所  
愈々大ナリ諸子克ク時勢ノ推移ニ鑑ミ急進ヲ慎ミ遲  
滯ヲ戒メ和衷審議以テ會是ノ遂行ニ遺憾ナカラシ  
メンコトヲ望ム

昭和二年三月二日  
第三回評議會ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會創立記念日第一回ノ式典ヲ舉グル  
ニ當リ親シク諸子ト相見ルヲ欣ブ  
惟フニ帝國在郷軍人會ハ創立後茲ニ十八年會員ノ  
丹誠ト熱情トニ由リ克ク堅實ナル發展ヲ遂ゲ會勢  
日ニ旺ナルヲ致セリ諸子宜シク協力同心常ニ設立  
ノ趣旨ヲ體シ以テ  
聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期スベシ

昭和二年十一月三日  
創立記念日式典ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會評議會ノ開催ニ當リ諸子ト親シク  
相見ルヲ欣フ  
諸子カ負託ノ任ヲ帶ヒ屢々重要ナル會議ニ列シ會  
運ノ隆昌ニ資スルコト大ナルハ予ノ深ク勞トスル  
所ナリ今ヤ本會ノ企畫ハ漸ク多ク業務亦繁キヲ加  
ヘ一層諸子ノ力ニ待タサルヲ得ス宜シク會勢ノ伸  
暢ヲ念ヒ大局ヲ洞觀シ慎重審議以テ實績ヲ舉クヘ  
シ

昭和三年三月五日  
第四回評議會ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

茲ニ明治ノ佳節ヲ迎ヘテ帝國在郷軍人會創立記念  
日ノ第二回祝典ヲ舉ケ親シク諸子ト相見ルヲ欣フ  
本會ハ會員ノ熱誠ト朝野ノ後援トニ依リ隆昌ヲ致  
シ重視セラルニ至レリト雖邦家ノ進運ハ切ニ其發  
展ヲ促シテ止マス諸子益々奮勵各本分ヲ盡シ協力同  
心報効ノ誠ヲ抽テ 聖旨ニ對ヘ奉ランコトヲ期セ  
ヨ

昭和三年十一月三日  
第二回本會創立記念日ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

今上陛下御登極ノ初 勅諭ヲ陸海軍人ニ賜ヒ今特  
ニ帝國在郷軍人會會員ヲ親閱アラセラレ申ネテ  
明勅ヲ賜フ感激ノ至ニ堪ヘサルナリ會員タル者深  
ク 聖諭ヲ體シ常ニ重責ヲ念ヒ各其本分ヲ守リ一  
致協力克ク信倚ニ酬イ 敕旨ニ對ヘ奉ランコトヲ  
期セヨ



昭和三年十二月三日  
全國大會ニテ

### 總裁 戰仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會評議會ノ開催ニ當リ諸子ト親シク  
相見ルヲ欣フ

本會ハ諸子ノ奮勵努力ニ依リ年ヲ逐ウテ隆昌ヲ致  
シ朝野ノ信賴益々重ク邦家ノ進運ニ資スル所愈々切ナ  
リ諸子常ニ國情ニ鑑ミ和衷協同克ク會是ヲ遂行シ  
其ノ重責ヲ完ウセンコトヲ期セヨ

昭和四年三月十三日  
第五回本會評議會ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會創立記念日第三回ノ式典ヲ舉クル  
ニ當リ親シク諸子ト相見ルヲ欣フ  
惟フニ本會ノ逐年發達シテ能ク今日ノ隆盛ヲ致セ  
ルモノ一ニ會員ノ熱誠ト朝野ノ後援トニ由ル諸子  
宜シク會是ヲ體シ重責ヲ念ヒ居常相戒メ協力同心  
報效ノ誠ヲ抽テ以テ  
聖旨ニ對ヘ奉ラムコトヲ期スヘシ

昭和四年十一月三日  
第三回本會創立記念日ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會ノ評議會ヲ開催スルニ當リ諸子ト  
親シク相見ルヲ欣フ

本會ハ諸子ノ熱誠ニ依リ年ヲ逐テ隆昌ヲ致シ邦家  
ノ進運ニ寄與スル所頗ル多ク朝野ノ信賴益々重シ諸  
子常ニ

聖旨ヲ體シ會是ニ遵ヒ深ク時世ノ推移ニ鑑ミテ和  
衷協同克ク其ノ重責ヲ完クセンコトヲ期セヨ

昭和五年三月三日  
第六回本會評議會ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會創立記念日第四回ノ式典ヲ舉タル  
ニ當リ親シク諸子ト相見ルヲ欣フ  
惟フニ本會ハ創立以來茲ニ二十年會員ノ拮据淬礪  
ト朝野ノ後援トニ由リ會勢愈々舉リ今日ノ隆運ヲ  
致セリ諸子宜シク其ノ重責ヲ念ヒ協力同心益々報  
效ノ誠ヲ抽テ以テ  
聖旨ニ對ヘ奉ランコトヲ期スヘシ

昭和五年十一月三日  
第四回本會創立記念日ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會評議會ノ開催ニ當リ諸子ト親シク  
會シ得サルヲ遺憾トス  
諸子常ニ負託ヲ重ンシテ會務ニ奮勵シ之カ進展ニ  
意ヲ用フルコト深シ予太タ之ヲ勞トス今ヤ本會ノ  
使命ハ年ト與ニ其大ヲ加フ諸子宜シク時世ノ推移  
ニ鑑ミ和衷同心會是ニ遵ヒテ目的ノ達成ニ力メ以  
テ邦家ニ貢獻センコトヲ期スヘシ

昭和六年三月二日  
第七回本會評議會ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

本日帝國在郷軍人會創立記念日ノ式典ヲ舉クルニ  
當リ親シク諸子ト相見ルヲ欣フ  
惟フニ本會ハ創立以來茲ニ二十一年會員ノ拮据淬  
礪ト朝野ノ後援トニ因リ會勢益々旺ニシテ負託愈々重  
キヲ加フ諸子ハ現下ニ於ケル帝國內外ノ情勢ヲ洞  
察シ協力同心報效ノ誠ヲ抽テ以テ  
聖旨ニ應ヘ奉ランコトヲ期セヨ

昭和六年十一月三日  
第五回本會創立記念日ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會第八回評議會ノ開催ニ當リ諸子ト親シク相見ユルヲ得サルヲ遺憾トス  
諸子常ニ負託ヲ重ンシテ會務ニ奮勵シ特ニ現下ノ時局ニ直面シテ克ク其ノ本分ニ邁進シ帝國ノ進運ニ貢獻スルコト頗ル大ナリ予深ク其ノ勞ヲ多トス  
今ヤ本會ノ使命ハ益々重キヲ加フ諸子宜シク時勢ヲ洞察シ和衷協力會是ニ遵ヒテ目的ノ達成ニ努メ以テ朝野ノ期待ニ副ハムコトヲ期スヘシ

昭和七年三月二日  
第八回評議會ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會ハ今次全國大會ヲ滿洲ニ開催ス此  
ノ舉現下ノ時局ニ鑑ミ洵ニ機宜ニ適シタルヲ欣フ  
諸子ハ常ニ負託ノ重キヲ念ヒ一意報效ノ誠ヲ擢テ  
會勢伸展ノ爲不斷ノ努力ヲ傾注シ特ニ今回ノ事變  
ニ際シテハ内外克ク勤メ會員ノ眞價ヲ發揮シタル  
ヲ認ム惟フニ帝國ノ前途益々多事ナラムトス諸子  
愈々心身ヲ鍛鍊シテ本分ヲ恪守シ以テ帝國ノ進運ニ  
貢獻セムコトヲ期セヨ



昭和七年六月五日  
奉天ニ於ケル全國大會ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會ハ現下ノ時局ニ鑑ミ茲ニ全國大會ヲ開催セルハ洵ニ機宜ニ適スルノ舉ナリ  
惟フニ諸子ハ常ニ聖旨ヲ奉體シ規約ノ精神ニ基キ其ノ責務ヲ盡シ特ニ今次ノ事變ニ際シテハ至誠奉公ノ實ヲ舉ケ克ク其ノ本分ヲ完ウセルヲ欣フ  
今ヤ帝國ハ内外益々多事ニシテ諸子ノ努力ニ俟ツモノ愈々多キヲ加フ諸子夫レ協力一致以テ國運ノ伸展ニ寄與センコトヲ期セヨ

昭和七年十月二十九日  
全國大會ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會第九回評議會ノ開催ニ當リ諸子ト親シク相見ルヲ欣フ  
諸子常ニ負託ヲ重ンシテ會務ニ奮勵シ特ニ現下ノ時局ニ直面シテ克ク其ノ本分ニ邁進シ帝國ノ進運ニ貢獻スルコト頗ル大ナリ予深ク其ノ勞ヲ多トス今ヤ内外愈々多事ナルノ秋諸子宜シク時局ノ將來ヲ洞察シ和衷協力會是ニ遵ヒテ目的ノ達成ニ努メ以テ朝野ノ期待ニ副ハンコトヲ期スベシ

昭和八年三月三日  
第九回本會評議會ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會聯合支部長、支部長會議ノ開催ニ當  
リ親シク諸官ト相見ルヲ欣フ  
諸官ハ常ニ本會ノ使命重大ナルヲ念ヒ克ク其ノ負  
託ニ對ヘ本會ヲシテ今日ノ隆運ヲ致サシメタリ予  
深ク其ノ勞ヲ多トス今ヤ帝國ハ國際聯盟ヲ脫退シ  
内外愈々多事ニシテ舉國一致難局ノ打開ニ邁往シツ  
ツアルノ秋國運ノ興隆ハ本會ノ力ニ俟ツコト洵ニ  
大ナルモノアリ宜シク時局ノ將來ヲ洞察シテ會員  
指導ノ重責ヲ完ウシ以テ朝野ノ期待ニ副ハンコト  
ヲ期セヨ

昭和八年四月五日  
聯合支部長、支部長拜謁ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

軍人會館ハ皇室ノ恩遇ヲ辱ウシ會員ノ熱誠ト朝野  
ノ後援トニ依リ茲ニ竣工ヲ告ケ本日其ノ落成式ヲ  
舉クルヲ欣フ  
會員諸子宜シク建設ノ趣旨ヲ體シテ施設ヲ善用シ  
其ノ使命ヲ完ウセムコトヲ期セヨ

昭和九年三月二十五日  
軍人會館落成式ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會全國代表者大會ニ當リ畏クモ  
大元帥陛下參列者ヲ宮城ニ召サレ親シク御沙汰ヲ  
賜フ叡慮宏遠感激ノ至リニ堪ヘス  
惟フニ諸子ハ居常心身ノ鍛鍊ニ努メテ會是ノ達成  
ヲ圖リ範ヲ郷黨ニ示シテ國民ノ儀表トナリ特ニ近  
年時局多事ノ秋ニ際會シテ克ク其ノ本分ヲ盡シツ  
ツアリ予深ク其勞ヲ多トス今ヤ本會ノ使命ハ益々  
重キヲ加フ諸子宜シク  
聖旨ヲ奉體シ時勢ヲ洞察シテ協力一致邦家ノ進運  
ニ貢獻センコトヲ期セヨ

昭和九年三月二十五日  
全國代表者大會ノ際賜  
ハリタル

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會第十回評議會ノ開催ニ當リ諸子ト  
親シク相見ルヲ欣フ  
諸子ハ常ニ負託ヲ重ンシテ會務ニ精勵シ特ニ現下  
ノ時局ニ直面シテ帝國ノ進運ニ貢獻スルコト大ナ  
リ予深ク其ノ勞ヲ多トス今ヤ邦家ノ現状ハ愈々多  
事ニシテ本會ノ使命ハ益々重シ諸子宜シク宇内ノ  
大勢ヲ洞察シ和衷協力會勢ノ發展ヲ圖リ以テ其ノ  
重責ヲ完ウセンコトヲ期セヨ

昭和九年三月二十六日  
第十回本會評議會ノ際賜リタル

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會聯合支部長支部長會議ニ當リ親シク諸官ト相見ルヲ得サルヲ遺憾トス  
諸官ハ聯合支部以下各團體指導監督ノ重責ヲ負ヒ常ニ會是ヲ體シテ其ノ任ヲ盡シ本會ヲシテ今日ノ隆運ヲ致シ克ク威信ヲ發揚セシメタリ予深ク其ノ勞ヲ多トス今ヤ國家ハ愈々多事ニシテ本會ノ使命益々重シ宜シク時局ノ將來ヲ洞察シテ會員ヲ導キ以テ負託ヲ全ウセンコトヲ期セヨ

昭和九年四月五日  
聯合支部長、支部長會議ノ際賜ハリタル

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會ハ創立以來二十四年ヲ閱シ會員ノ  
努力ニ因リ會勢益々盛ニシテ會務彌々整フ予深ク諸子  
ノ勞ヲ多トス

今ヤ帝國ハ非常ノ時艱ニ際會シ本會ノ使命益々重シ  
諸子宜シク世相ノ推移ヲ究メ國際ノ情勢ヲ洞察シ  
自奮自勵國力ノ充實ヲ圖リ戮力同心時艱ノ克服ニ  
邁進シ以テ其ノ本分ヲ完ウセムコトヲ期セヨ



昭和九年十一月三日  
創立記念日式典ノ際

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會第十一回評議會ノ開催ニ當リ諸子  
ト親シク相見ルヲ欣フ  
諸子ハ常ニ負託ヲ重ンシテ率先會務ニ精勵シ會勢  
ノ發展ヲ圖リ帝國ノ進運ニ貢獻スルコト大ナリ  
予深ク其勞ヲ多トス今ヤ國家ノ現状ハ愈々多事ニシ  
テ本會ノ使命益々重シ諸子具サニ帝國內外ノ情勢ヲ  
究メ會員ノ重大ナル責務ヲ顧ミ和衷協力其ノ本分  
ヲ完ウセムコトヲ期セヨ

昭和十年三月十四日  
第十一回本會評議會ノ際賜ハリタル

### 總裁 載仁親王殿下令旨

帝國在郷軍人會創立以來茲ニ二十有五年團結愈鞏  
固ニシテ會勢益隆昌ヲ加フ是レ實ニ會員ノ自覺ト  
奮勵トニ依ル所ニシテ深ク其ノ勞ヲ多トス  
現下國際ノ關係ハ頗ル複雑ニシテ國內ノ世相亦極  
メテ多難ナリ諸子夫レ環境ノ情勢ヲ究メ時勢ノ推  
移ヲ察シ戮力協心會是ヲ體シテ國力ノ充實國防ノ  
完備ニ努メ以テ其ノ本分ヲ完ウセムコトヲ期セヨ

349  
728

昭和十一年一月十日 印刷  
昭和十一年一月十五日 發行  
東京市麹町區九段一丁目五番地  
編輯兼 法人軍人會館出版部  
發行者 右代表者 小 原 正 忠  
東京市麹町區九段一丁目五番地  
印刷者 右代表者 横 山 才 四 郎

昭和十一年十一月三日  
本會創立第二十五周年  
記念式典ニ際シ

帝國在鄉軍人會本部

終